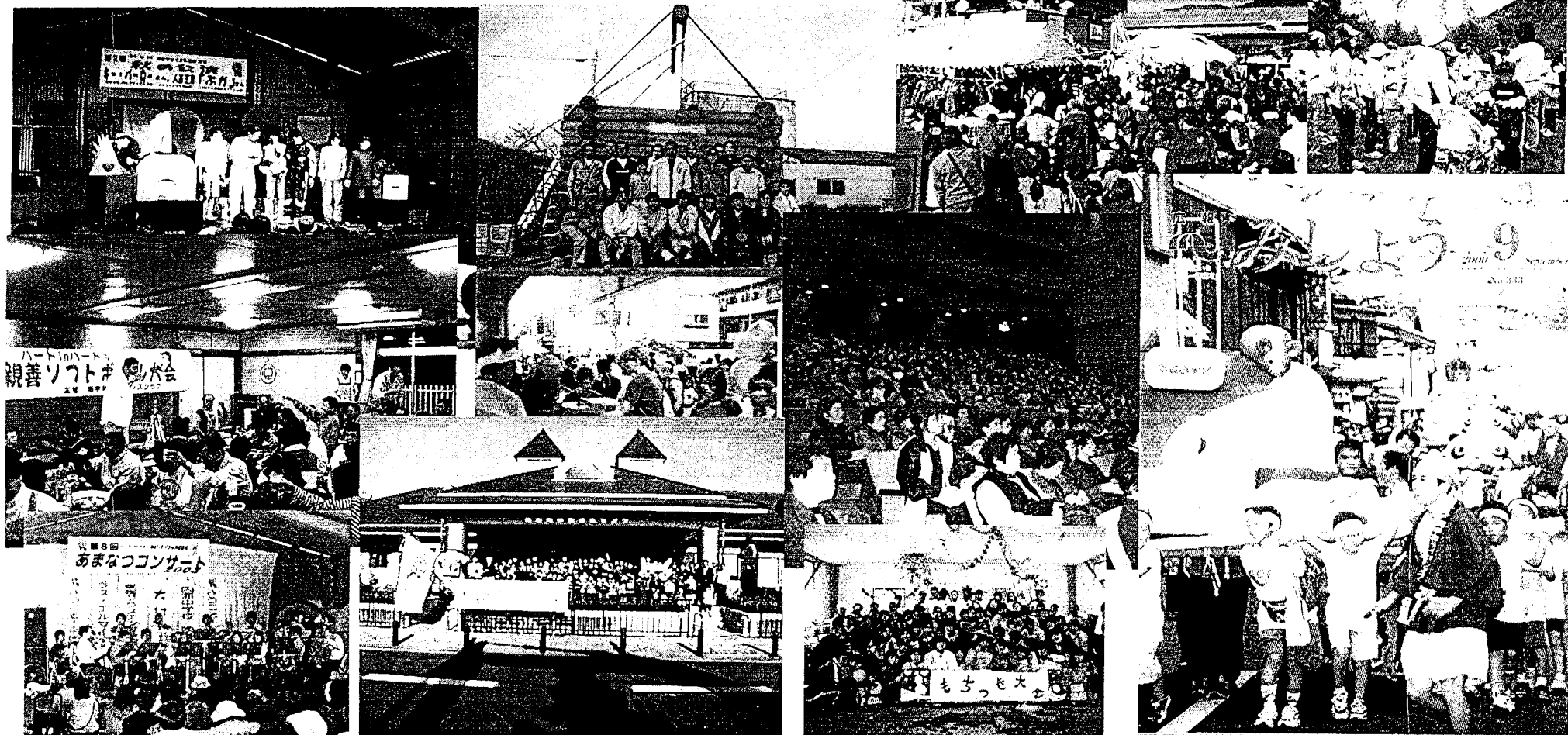


南宇和障害者の社会参加を進める会

(H元年～、個人会員1,303名)

世代を越えて、障害の有無に関わらず、共に



「進める会」南宇和福祉リサイクル活動

- 「進める会」の交流活動の中で出会った主体的な多職種の地域住民が主導でH8年開始。年間延べ1000人を越える参加者、今年で13年目。
 - うどん屋(代表)、大工、漁師、御荘かき養殖、整形外科医、平山寮生などで立ち上げ
- 当初はリサイクル品をイベントなどで販売、常設店づくりを目指した。
- 呼びかけの言葉は「勝手にボランティア、みんなついなんやけん(みんな同じなのだから)」
 - 『当事者と共にふつうの住民の参加・参画を目指し、義務感より「楽しさ」で惹きつけたいという思いがありました。ボランティア活動の参加に関しては、継続参加の難しい人たちもおられます。久しぶりの参加に敷居が高くなならないような配慮が必要でした。得てしてありがちな「やってあげている」という思い上がりに陥らないような注意も必要でした。そのようなことから自戒を込めながら「ハートinハート勝手にボランティア」というネーミングができあがりました』(立ち上げメンバーの一人:渡部三郎氏)
- 障害を持つものも、持たないものも同じ地域住民として街づくりを行う市民活動。
- あまなつコンサート、人形芝居ふかなど子供からお年寄りまで楽しめるイベントを「平山寮」を拠点に開催し続けている。
- H12年夢の常設リサイクルショップ「ハートinハートなんぐん市場」開設。
- あまなつプロジェクト(放置竹林の整備とその竹の炭化を核とした地域資源循環型プロジェクト)、森林ボランティアなど環境問題に取り組み。
- NPO法人ハートinハートなんぐん市場の基盤。(NPO法人立ち上げ後もボランティア活動は継続)

なんぐん地域ケア研究会

南宇和郡医師会主催 H8～



目 的

この会は、南宇和の住民が「共に生きる街なんぐん」を目指し、話し合い・考え・活動・発信することにより、自助、公助、共助が協力し、より良い街づくりに貢献することを目的とする。

テーマ

認知症ケア
介護全般
家族支援
医療
子供の見守り
障害者福祉
まちづくり
など

定例会・大会

95回

なんぐんのネットワークの特徴

- 一地域、一保健所、一精神科病院という密な連携と、それを強力に支援して下さる地域住民で立ち上がった精神障害者を支援するネットワークを基盤として、障害の有無にかかわらず、障害種別を問わず共に街づくりを行うネットワークへ。
- 子供から高齢者まで、男性も女性も、ふつうの住民の参画。
- 専門職も一地域住民としての参画を心がけている。
- 多様な組織形態(官～官民一体～民)、多様な切り口の組織同士が「共に生きる街なんぐんへ」という共通の目標に向かって緩やかなネットワークを形成している。
- 既存の団体との協働(ライオンズ、婦人会など)
- 強い顔の見えるつながり～2代3代に。幅広い年齢層。
- 他地域とのつながりを大切にしてきた。

ふつうの住民: それぞれの分野には本来関わりを持たない地域住民の方々。障害者福祉をはじめそれぞれの分野が地域に根付くために不可欠な存在だと考えている。